#さあ本を読もう #冬はこたつで #読書 https://twitter.com/osakaprefPR

わたしを作るこの一冊

本を読みましょう。本を開けば、ドラえもんのポケットと同じで、いろんな未知の世界に誘ってくれます。本に親しみながら心を豊かに、体を鍛え、技に磨きをかけているアスリートたちも少なくありません。第1回は、女子サッカー日本代表の鮫島彩さん（INAC神戸レオネッサ）に、読書の楽しさについて聞きました。

INAC 神戸レオネッサ
鮫島 彩 選手

さめしま・あや
1987年、栃木県河内郡河内町（現・宇都宮市）生まれ。常盤木学園高校（仙台市）卒。主にMFでプレーし、U-18で初の日本代表に選ばれる。東京電力マリーゼ、米国ボストン、仏モンペリエで経験を積み、11年にFIFA女子W杯では全試合でスタメン出場し、初優勝に貢献、ベガルタ仙台在籍時にロンドン五輪で銀メダルを獲得。2015年からINAC神戸レオネッサに所属し、皇后杯で優勝。同年のFIFA女子W杯大会で準優勝。2016、2017年連続でリーグのベストイレブンに選出された。今季はなでしこリーグ200試合達成で特別表彰を受賞している。

INAC Kobe LEONESSA SAMESHIMA AYA

——本を読み始めたのはいつごろから。

小学校の3、4年生のころからです。『なかよし』や『りぼん』などのコミック誌に夢中になりました。少年向けもけっこう好きで、長編マンガ『キングダム』（原泰久・作）は全部集めています。ファンタジー系の物語にもはまり、推理小説も好きで、宮部みゆきのサスペンス小説『レベル7』は強く印象に残っています。

——どんなときに読んでいるのですか。

アウェイの試合のときには必ず文庫本2冊を持っていき、移動中に読んでいます。自宅にいるときもテレビよりは本が好きですね。みんなと一緒にいるのは大好きですが、一人でいる自分の時間もしっかりと持っていたいので。

——最近、読まれた本で好きなのは。

小野不由美さんの人気のファンタジー小説『十二国記』ですね。この秋、18年ぶりの新作が出ましたし、とても楽しみです。小野さんの文章や細やかな表現に魅せられています。

——アスリートにとって読書とは。

サッカー関係では、『僕がバナナを売って算数ドリルをつくるワケ』（天野春果・著）には目を開かされました。川崎フロンターレのスタッフの天野さんが、地元の人たちとの信頼を築き、チームを地域に浸透させていく軌跡を描いたものです。スポーツをビジネス的な発想で見つめると、新しい可能性が次々と見えてくるのです。私も選手としての立場から学ぶことが多かったですね。

——豊富な海外経験で学んだことは。

フランスにいたときは、特に自分の思いをきちんと伝える大切さを学びましたね。コミュニケーションの力がなければ、チームの信頼を得られません。その点でいえば、読書は登場人物を通していろんな立場に身を置いて、考えさせられます。

——いまの目標は。

今日一日できることにベストを尽くすこと。それは簡単ではありませんが、精一杯に続けていきたい。まずはチームとして皇后杯で優勝することです。

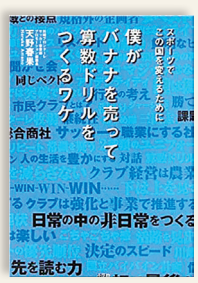
鮫島選手おすすめの3冊

レベル7（セブン）
宮部みゆき 著／新潮文庫刊

レベル7まで行ったら戻れない―― 謎の言葉を残して失踪した女子高生。ミステリー・サスペンスの最高峰。

十二国記シリーズ
白銀の墟 玄の月 第一巻
小野不由美 著／新潮文庫刊

18年ぶりの書下ろし新作、ついに！ 現世とは異なる世界〈十二国〉を舞台に繰り広げられる、壮大なファンタジー。



僕がバナナを売って算数ドリルをつくるワケ
天野春果 著／小学館

サッカーには街と人を豊かにする力がある。選手だけでは存在しえないサッカークラブの新たな取り組みが大きな可能性を見出す。

もずやんがつぶやく大阪府の公式ツイッターで、毎週金曜日、中高生へ向けて本を紹介しています。

古墳の歩き方 歴史
まりこふん 著 ／ 扶桑社

百舌鳥・古市古墳群、世界遺産登録で古墳が大注目されている今、読んでほしい、著者おすすめの古墳の巡り方をたくさん掲載したガイドブックです。著者自身が歩いて集めた観光に役立つ情報や、おもしろ古墳グッズ、周辺スポットやグルメ情報も掲載!歴史に詳しくなくても、気軽に古墳巡りが楽しめる本です。

基礎から始める スポーツクライミング スポーツ
公益社団法人東京都山岳連盟 監修
／日本文芸社

東京オリンピックの正式種目「スポーツクライミング」に関する入門書。
必要な道具や基本的な動き・ルールが、3つの競技別（ボルダリング、スピード、リード）に解説されています。
施設紹介も掲載されていて、これから始めてみたいなと考えている人はもちろん、経験者にも役立つおすすめの1冊です♪
この本でスポーツクライミングのことをたくさん知って、来年のオリンピックは盛り上がろう!

探偵が早すぎる（上）（下） 推理小説
井上真偽 著 ／ 講談社

父から莫大な遺産を相続したことで、遺産目当てで親戚から次々と命を狙われる女子高生の主人公を探偵が守る。
タイトルとおり探偵が早すぎて、事件を未然に防いで事件が何も起こらない新感覚ミステリー小説!!